

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	りんどう 橙		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和2年9月6日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2192500029-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosyoOd=2192500029-00&amp;SerVi.ceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

例年であれば、地域の行事に参加したり、他事業所と合同レクを行ったり、幼稚園や小学校、地域子供会とのふれあいや、中学生の職場体験受入れ等をし、将来介護を担う次世代へ介護のすばらしさや必要性を伝える事に力を入れています。現在は、コロナの影響で日々感染予防に努めています。  
又、多機能型居宅介護の利用から認知症対応型共同生活介護へ状態によっては特養へと地域密着型3事業で、情報を伝達や共有を行い、見慣れた環境の中で、介護を繋げていける所はアピール点となります。

職員は、利用者のやりたい事や思いを大切に楽しく笑顔で過ごせる支援に取り組んでいる。米とぎ・洗濯干し・たみ等利用者の出来る事を見つけ出して持てる力を発揮できる場を作り、喜びや自信に繋がる支援をしている。運営推進会議休止中は、書面開催報告書で通常の会議と同様に事業所の状況と取り組み内容を知らせて地域・行政との関係づくりの維持に努めている。地域からは「りんどう祭りは地域との接点であり開催できる日を待っています」との意見も出ている。家族面談・外出においても感染症対策をしながらアイデアを出し合って楽しい時間を過ごせるように努めている。法人・事業所は研修や勉強会の参加を応援し介護技術の向上に繋げ、意見や要望等を収集して採用する事で職員のやりがいや向上心を引き出し働きやすい職場づくりに努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で、理念を共有し合い、さらに月に一度あるグループ会においても、利用者様の声に耳を傾け、1人ひとりに寄り添っている	理念を基に各ユニットで目標を作っている。利用者の思いを尊重して出来る力を活かし、笑顔で楽しく過ごせる支援に取り組んでいる。会議等で目標が達成出来ているかを確認しながら理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、感染時期でない時には地域で行われるラジオ体操・防災訓練への参加をしたり、地域の子供会から施設訪問がありました。地域貢献交流活動の一環として「つなぐ」を月一回開催し、地域との繋がりを大切にしている	子ども会や学校・地域行事へ参加し、事業所の「りんどう祭り」・毎月開催する地域貢献交流活動などで交流している。現在コロナ自粛で何れも休止しているが、地域からも開催を望まれ再開のタイミングを模索検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されている「寺カフェ」「ローズカフェ」に利用者様と一緒に参加し、りんどうの説明や認知症への理解の啓発を行っている。地域の小学校の授業にも参加し、福祉の学習の手助けを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々からのご意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、利用者様の家族様より貴重なご意見頂き、サービスに繋げている	自粛中は運営推進会議を書面開催として報告書を送付し、事業所の現状の周知に努めている。意見や課題を職員間で検討し改善に繋げているが、議事録に出席者からの発言や意見の記載がされていない。	出席者からの貴重な発言や意見・要望等を議事録に記載する事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安八広域、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。地域連携のための多職種会議への参加も行い、困難事例検討会も行っている	行政主催の会議や研修会には、積極的に参加して意見交換をしている。オレンジ啓発運動に協力したり、介護相談所の担当を受けたりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の活動範囲を把握し、拘束は行っていない。又その都度グループで話し合いを行い、十分に注意し業務を行っている。スピーチロック撲滅月間を設け全職員で取り組んでいる	定期的に身体拘束や虐待に関する研修を受け日々のケアを振り返っている。8月をスピーチロック撲滅月間として、ポスターを掲示して意識付けをし、職員間で声をかけ合って利用者の思いにそったコミュニケーション作りに取り組んだ。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行っていない。入浴時や更衣時には、必ずボディチェックを行い、早期発見に努めている。職員同士言葉がけには、注意をしあっている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用に繋げる支援体制は、出来ている。施設内での動画研修でも学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族様や利用者様の参加をしてもらい、意見を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている	面会制限の中で「顔を見たい、声が聞きたい」の要望が強く、法人の会議に意見を上げ、アクリル板越しの面会を実現し、現在タブレット面会を準備中である。2階ベランダの利用者と地上の家族と一緒に誕生会を行い、双方の喜びに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会で、意見を徴収し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。研修参加の希望を確認することを行っている	管理者は、業務中や会議で意見や要望等聞いている。服薬ミスについて職員の提案を取り入れ事故が減った。スタッフカード(要望・アイデア・質問)を提出してもらい回答をしている。内容によっては職員通用口に掲示して共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回行われる人事考課や、業務の中で、職員との情報交換を行い、お互いに向心を持って働けるように心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度の支援制度を充実している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、各施設で抱えている困難事例の検討会を行っている。他のグループホームとの情報交換も行き、サービスの質の向上に繋げている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に目を配り、訴えが難しい利用者様には、こちらから声掛けを行ったり、時には職員同士話し合い、安心して生活して頂けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、家族面談により情報を聞き、納得したサービスを利用して頂けるように支援している。家族様の意見は、職員間で情報の共有を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様からの聞き取った情報を基に、必要な支援を検討し、納得したサービスを利用して頂けるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりに担当職員を決め心身の状態把握に努めている。担当職員は本人様主体でできることを出来るように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との良好な関係作りを積極的に行い、面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。感染対策中に面会できない時には、家族様に最近の様子を電話で報告し、安心して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店や友人との関係性など情報を得て、要望に沿った支援をしている。以前からお好きな柿羊羹のご持参やベランダと階段下での誕生日祝い、コロナで外出はできていない	家族の協力を得て馴染みの喫茶店や親戚の食事会に出かけている。自宅近くへのドライブや町文化祭で昔の知人に会う事もある。自粛中も感染防止策を講じて家族と会ったり書中見舞いや手紙・電話等で関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを大切にし、トラブル等があれば席の場所を変えたり、職員が間に入り寄り添った介護を行っている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている。年に一度は、ラックと合同の慰霊祭を開催し、毎年参加して頂く家族様も見えます		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望む生活に家族の方からの情報収集を行ったり、日常生活から把握に努めている。必要な時には、家族様の支援もお願いすることもある。精神的に不安定な方には、食事等摂れる物を摂れる時で対応。食器も好みの物を持参して頂いている	家族の情報や個別対応で話を聞いたり、職員の経験を活かしたりして利用者の思いや意向を把握している。言われない方には、変化や様子を見たり、希望を言いやすいように声かけを工夫したりして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントや会話の中で生活歴を聞き出し把握するように努めている。又家族様から伺う事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様だけでなく、家族様にも目を向け援助内容を決定、日常の状態把握を行い、気づいた事は記録に残し、共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループ会等の会議で、意見交換し介護計画に繋げている。3ヶ月に1回は家族様に了解を得ている。利用者様の気持ちを大切にし、個別支援に努めている	本人・家族の要望、モニタリング、ケアプランチェック表、ADL状況書を基に会議で意見を出し合って介護計画を作成している。状態変化時は見直し、足りないことを追加したり、変更したりしている。医師の意見を聞く事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等をケースや日誌に記録し、多職種で共有し、連携している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合ったサービスの提供を行っている。感染時期には出来ないが、併設している事業所(特養・多機能)との交流を図っている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握にはなかなか至らないが、感染時期でない時には、小学生の訪問や子供会の訪問があり、地域との交流が出来る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の健康管理は、事業所の協力医にお願いしており、他科受診時には、NSより情報提供を出して情報交換している。協力歯科医院が近隣に出来たことで受診や指導がスムーズになった	本人・家族の希望で協力医に変更して訪問診療を受けている。従来のかかりつけ医や専門医の受診は情報提供書を持参して家族が付き添っている。結果は書類か口頭で受け情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急にNsと家族様に連絡し、適切な治療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族様や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になられた時には、体調の状態を家族様に密に報告し、本人様や家族様の希望に添った対応を心がけている。面談時や体調変化時に状況を踏まえて確認、必要時にはDrからの説明を受ける事をしている。入所時に意向の確認も行っている	入居時に重度化や終末期の事業所の方針を説明して意向を確認している。状態変化の都度利用者・家族と話し合いを行い、訪問診療時に家族も同席して医師の説明を受けている。利用者・家族の思いにそって方針を共有しながら終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には、夜間はオンコール体制ができており、Nsに指示を仰ぐことができている。必要時にはNsが施設に来て対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主体となり、年2回の避難訓練を実地している。職員ひとり一人が災害に関心を持てるようになってきた。運営推進委員の方の参加をして利用者様の状態や建物構造を知って頂く良い機会になりました	運営推進会議時に夜間想定訓練を行った。自治会の総会時に災害時の協力を呼びかけ、地元消防団にも援助依頼をしている。1回目の避難訓練は、コロナ禍で防災訓練意識調査を行い訓練は延期としている。	コロナウイルスの感染状況によっては、訓練の中止もあり得るが、延期となっている避難訓練が実施出来ることを期待したい。

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切に考え行動している。会議等でも再認識できている。スピーチロックのポスターを掲示したりと個々で気づく事が出来るようになってきている	言葉づかいや対応が馴れ合いにならないよう気を付けている。異性介護になる時は、丁寧な声かけと笑顔で接し、安心と信頼に繋がるように努めている。動画研修や会議で接遇の意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様自身で希望を決めて頂けるような声掛けを行い、本人様の希望に添った対応を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で行える方には、好みの服をだし、着て頂いたり、身だしなみには心がけている。ご自分で出来る事が増やしていけるような支援を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等利用者を手伝って頂きながら行っている。食べる事を忘れてしまった方には、メニューを読んで頂いたり食事後に何を食べたか思い出しながらメモに残して頂いている	米とぎや盛り付け・味噌汁の温めを利用者も行っている。肉を魚に代替したり、食事時間が長い人に合わせたり、個々の好みやペースを大切にしている。行事食・握りずしや天ぷらの実演・おやつ作り・屋上でのおやつタイム等楽しみを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事のバランスには利用者様の好みの物食べやすい状態などを調整しながら確保している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや義歯を自分で洗える方は自分で行っている。定期的に歯科衛生士が入り、口腔ケアを専門的に行って頂いている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、ADLや認知力に応じた支援をしている。日中はトイレでの排泄を基本とし、二人介助や誘導時間を考慮した対応を行っている	事業所の方針として日中はトイレでの排泄を基本としている。立位困難な人には、2人で介助している。夜間はポータブルトイレも使用するが、ユニット同士助け合って2人介助で支援する時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をすすめ一日の平均水分量を算出している。なるべく普通食を食べてもらえるようにしたり、体操や運動に取り組んで頂けるように声掛けしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている。菖蒲湯など季節感を味わって頂いたり、職員と一緒に歌を歌いリラックスして入浴して頂いている	入浴回数・時間・湯温・順番等利用者の希望に合わせて、季節毎や好みが入浴剤を使って楽しむ支援をしている。拒む人には、押し付けず人や日時を変え、声かけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、状態変化は、ケース記入し情報を共有し合っている。薬に関しては、説明書がある為変化が見られるときには看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでもらい、生活の張り合いにして頂いている。また個別ケアでのレクリエーションの手伝いも気分転換に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスが治まるのを待っている状況です。現在は職員と一緒にマスクを着用しゴミ捨て等の手伝いをして頂いている	コロナ自粛の中、例年通りの利用者の希望にそった外出支援を行えないが、出来る限りの感染症対策をしながら外気に触れる機会を作っている。朝顔のグリーンカーテン作りや屋上でのティータイム・駐車場内散歩等外の景色や外気に触れて気分転換をしている。	



グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクが出来ない中ですが、購入依頼が出た時には、家族様に持って来て頂いたり、お預かりしているお小遣いで購入させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染対策でなかなか家族に会えない時には、手紙を書いて頂くように支援している。家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を設置している。感染対策としてのステリパワーも消臭効果があり、使用し不快な匂いを防いでいる。壁画には季節にあったポスターや一緒に作った作品を飾っている	陽光が入るリビングや廊下に手作りの万国旗や季節に合わせた折り紙の花を飾っている。各所を消毒し加湿器を置き、窓を開放して換気を行う等感染症対策への配慮もしている。ユニット間が行き来できて思い思いに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、対応したり交流して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分のものは居室に置き、自由に使ってもらえるようにしている。家族の写真を飾ったり、作品を飾って心地よく過ごして見える方もいます	入居時に使い慣れた物や好みの物を持参してもらうように伝えている。毛布や枕・椅子等馴染みの物を置き、家族写真や作品・プレゼントの花を飾っている。ベランダに出て外の景色を眺め、外気に触れる事も出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助しすぎないようになるべく自立した生活を送れるよう日々職員間で話し合い情報共有している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500029		
法人名	善心会		
事業所名	りんどう 葵		
所在地	岐阜県安八郡神戸町北一色555-1		
自己評価作成日	令和2年9月6日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosvoOd=2192500029-00&amp;ServiceOd=320&amp;Type=search">https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;g_yosvoOd=2192500029-00&amp;ServiceOd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和2年10月29日		

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を認識し、サービス向上の為、職員間の意思疎通をはかり利用者の情報の共有をしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の方に挨拶などして交流につなげているが、今は感染対策で出来ないが、再開した場合町内会や子供会との関わりを持ち、交流していきたい		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催されている「寺カフェ」「ローズカフェ」への参加がなかなか感染対策の為出来ないが、りんどうの説明や認知症への理解への啓発を行っていききたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々からのご意見、地域包括支援センターの方からは、困難事例への対応方法、町での取り組み課題の説明、利用者様の家族様より貴重なご意見頂き、サービスに繋げている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	安八広域、地域包括、福祉課等と連携を密にして連携をとっている。地域連携のための多職種会議への参加も行き、困難事例検討会も行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点で身体拘束は行っていない。又何が身体拘束に当たるのか日々業務で学んでいる。施設内にて言語・非言語での行動の抑制にも注意している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修に参加した職員を中心に生活の中で、精神、身体的虐待にならない介護に努めている。今後は他の職員にも研修会を受講し、虐待防止を徹底していく		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で権利擁護について学ぶ機会があったが、今後はより深く学ぶため外部研修(WEB)に参加し、支援の構築を図っていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。利用中においても不安や疑問に答えられる環境ができています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族様や利用者様の参加をしてもらい、意見等を頂いている。ご意見箱を設置し、意見を頂きやすい環境にある。外部評価結果は、エレベータホールに設置し、閲覧して頂けるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会や全体会で、意見を徴収し年2回人事考課制度を利用して個別面談を行い、意見交換や、職員の向上心に繋げている。参加したい研修の確認を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内研修や各委員会に参加を行い、各自スキルアップに繋げている。人事考課制度にも反映されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の育成には、研修委員を始め職員みんなで重点を置き、個々に合った指導を行っている。資格取得時には、法人の貸付制度の支援制度もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、各施設で抱えている困難事例の検討会を行っている。他のグループホームとの情報交換も行き、サービスの質の向上に繋げている。		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活を通しニーズや困っている事を色々なコミュニケーションを通じ把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面談時により情報を聴き、希望に添ったサービスを提供するために、職員間で情報を共有し、ケアプランに反映させている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様からの聞き取った情報を基に、必要な支援を検討し、納得したサービスの提供を支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人様はもちろん他利用者様との関係性も重視している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との良好な関係作りを積極的に行い、面会時には、最近の様子を知って頂けるようにしている。感染時の面会できない時には、家族様に最近の様子を電話で報告し、安心して頂いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションの中で、馴染みの店や友人の関係性などの情報を得て、要望に沿った支援を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の中で良好な関係の利用者同士に対し、積極的にコミュニケーションを深めていき、又良好な関係が築けない利用者様には傾聴し孤立しないように配慮している		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された時には、最後のお別れをさせて頂き、お礼と同時にこの先の関係性を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の望まれる生活に少しでも近づけられるよう、本人様に確認を取ったり家族様に意向を伺っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様より得た情報は、記録に残し職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様だけでなく、家族様にも目を向け援助内容を決定、日常の状態把握をし、気づいた事は記録に残し、共有し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となりより良いケアプランになるようにモニタリングを行っている。又担当だけでなく、グループの職員間での意見も反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別記録に残し、申し送りやノートや日誌を活用し、情報を共有し実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のニーズに合ったサービスの提供を行っている。感染時期には出来ないが、併設している事業所(特養・多機能)との交流が図れる。現在は感染対策の為行き来を中止している		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握にはなかなか至らないが、感染時期でない時には、小学生の訪問や子供会の訪問があり、地域との交流が図れる環境が整っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の健康管理は、事業所の協力医にお願いしており、他科受診時には、NSより情報提供を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時やケガ等日常の状態変化の時には、早急にNsに報告し、家族様に連絡し、適切な治療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の医師、看護師、ケースワーカーと情報交換している。入院中は家族様や看護師から定期的に経過を聞き、早期に退院出来るように良好な関係に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期になられた時には、体調の状態を家族様に密に報告し、本人様や家族様の希望に添った終末期を迎えて頂けるよう支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調不良時や怪我をされた時には、まず看護師に連絡し、介護士として対応できることは率先して行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	DRT委員会が主体となり、年2回の避難訓練を実地している。職員ひとり一人が災害に関心を持てるようになった。訓練には、運営推進委員の方の参加があり、地域の方の協力体制が築けている		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮し、介護に当たっている。不適切な言葉があった場合には、職員同士で注意し合える環境が出来ている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情やしぐさ等変化をキャッチし気づいて行けるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いすることなく、柔軟な姿勢で対応し、個々のペースや生活リズムで過ごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の好みを優先し、理美容など要望を伺い出来る範囲で支援している。ご自分で出来る事が増やしていけるような支援を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ個人の好みを尊重して、食べて頂けるのが重要だが、無理強いを行う事はしない。食事の準備は、出来る範囲で手伝って頂けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事のバランスには利用者様の好みの物食べやすい状態にして調整しながら提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に合わせ、出来る範囲でまずはご本人で行って頂き、最終的なチェックは職員が行っている。専門的なケアとして歯科医師・歯科衛生士の訪問がある		



グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを知り、本人の意思を尊重して、トイレでの排泄を支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を基本に考え、食事摂取量の少ない方への声掛けや、水補も色々な種類を提案し好きなものを飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を第一に考え、入浴の時間や温度など希望に添えるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での様子を伺い、休息を望まれたり、必要と思われる場合、ベッドでの休養を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、体調の確認、食事量、排便量を看護師に伝え、服薬管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食事の盛り付けを行える方には職員と一緒にいき、生活のメリハリをつける支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつや買い物や利用者様の必要な物の買い出しにスーパーに行っていたが、感染対策の為に外出自粛を行っており、外出支援には繋がっていない		

グループホームりんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクが出来ない中ですが、購入依頼が出た時には、家族様に持って来ていただくか、お預かりしているお小遣いで購入させて頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	感染対策で面会への規制があり、なかなか家族に会えない時には、手紙を書いて頂くように支援したり、家族に連絡を取りたい時には、施設の電話でかけて頂いたり、相談員が家族にかけたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬には加湿器として使える空気清浄機を設置している。感染対策としてのステリパワーも消臭効果があり、使用し不快な匂いを防いでいる。壁画には季節にあったポスターや一緒に作った作品を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で気の合う人とおしゃべりが出来るように、対応したり交流して頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分のものは居室に置き、自由に使用してもらえるようにしている。家族の写真を飾ったり、作品を飾って心地よく過ごして見える方もいます		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助しすぎないようになるべく自立した生活を送れるよう日々職員間で話し合い情報共有している		